

Top Interview

— 変革に挑む —

まとめ／堀水潤一 撮影／住吉健介

学校法人桑沢学園
東京造形大学
理事長

小田一幸



人々の生活や人類の幸せのため、 デザインや造形を どう生かせるか考えてほしい

本

学の母体である桑沢デザイン研究所は「デザイン」を冠した初の専門学校です。また、本学は「造形」という言葉を校名にした最初の大学です。もともと「デザイン」は美術の応用分野としてスタートしましたが、本学の場合、デザインを出発点とし、デザインと美術を社会とのかかわりの中で、広い観点から総合的にとらえるべく「造形」という言葉を使ったという経緯があります。

今はさらに、デザインの概念が変わってきています。私が工業デザイナーとして働き始めたころは、国力を増すため、輸出に貢献するために、どのようにデザインを生かすかということが大きなテーマとしてありました。つまり、国や企業

のためにという面が強かったのです。けれど今は違います。人々の生活や人類の幸せにどうかかわれるか、愛や平和のツールとしてどう生かせるか。そうした観点で、「デザイン」「造形」を考えていく時代にあると思っています。学生にももちろんどう生かせるかを考えていてもらいたいです。

本学および桑沢デザイン研究所の創立者である桑澤洋子先生の生誕100年である2010年から、学校法人桑沢学園では「SO+ZOMOVEMENT」と名付けた記念事業を展開してきました。その一つ「SO+ZOMOVEMENT」にあわせて発行した図録には、両教育機関の卒業生の作品がずらりと掲載されています。新入生全員に配付しましたが、この

分野に興味や関心のある高校生にもぜひ見ていただきたい。ご覧になれば、デザインや造形のもつ多様性に触れてもらえますし、本学出身のデザイナーや造形作家が社会でどのような役割を果たしてきたか実感していただけることと思います。

社会との関係性という意味では、高校に対しても、貢献できることがあれば積極的にしたいと考えています。例えば、高校の美術の時間に教員を派遣するなど、出前授業の機会を増やし、教育上のサポートができればと考えています。

また、外部に加え、内部の声も受けとめようと努力を続けてきました。授業料に関しては、今春から在学生を含め1割抑えることができました。経営の合理化によって得た資源を学生に還元したのです。

教育における私の夢は「安く、楽しく、ためになる」学校を作ること。今後、就職支援やメンタルヘルスケアなどを充実させ、学生が安心して学業に専念できる環境を整備していきたい。世の移り変わりにもフレキシブルに対応できるカリキュラムによって、世界中どこでも活躍できるだけの素地をつくりたいと思っています。

【理事長プロフィール】おだ かずゆき●1936年生まれ。桑沢デザイン研究所卒業。90年学校法人桑沢学園理事就任。91年同学園入職(東京造形大学事務局長)。98年より現職。日本私立大学協会常務理事。

【大学プロフィール】桑沢デザイン研究所設立の12年後にあたる1966年に設立。デザイン学科(グラフィックデザイン、写真、映画、アニメーション、メディアデザイン、室内建築、インダストリアルデザイン、テキスタイルデザイン、サステナブルプロジェクト)および美術学科(絵画、彫刻)の2学科11専攻領域。